

2006年7月期 決算説明会

包装システムの市場創造型トータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社



証券コード: 6267

目次

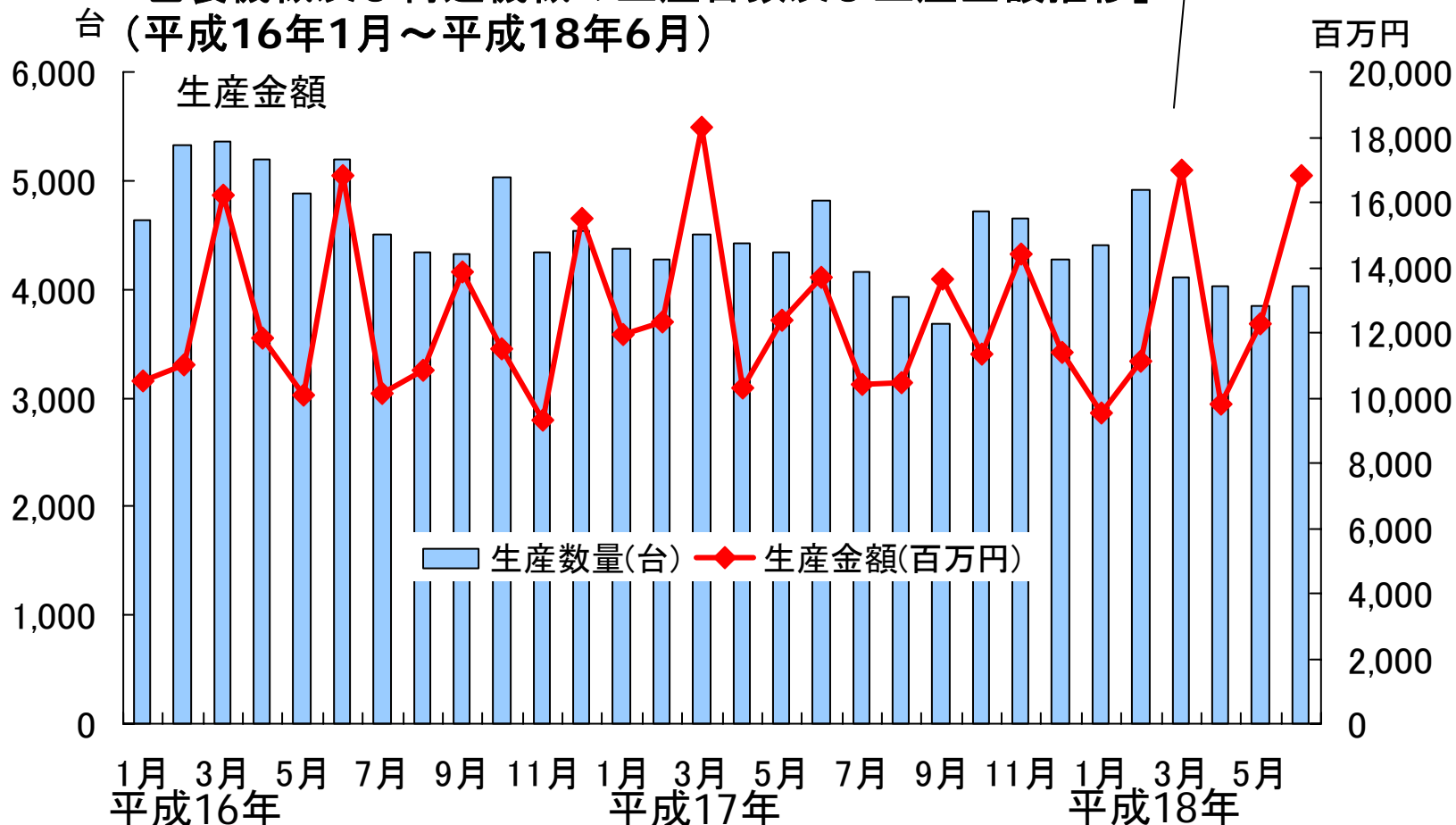
- I . 業界動向
- II . 2006年7月期決算概況
- III . 2007年7月期業績見通し
- IV . 中期経営計画と今後の取組み
- V . 参考資料

業界動向-1

経産省 機械統計確報

「包装機械及び荷造機械の生産台数及び生産金額推移」
台 (平成16年1月～平成18年6月)

18年上半期計
生産金額
前年同期比3%減

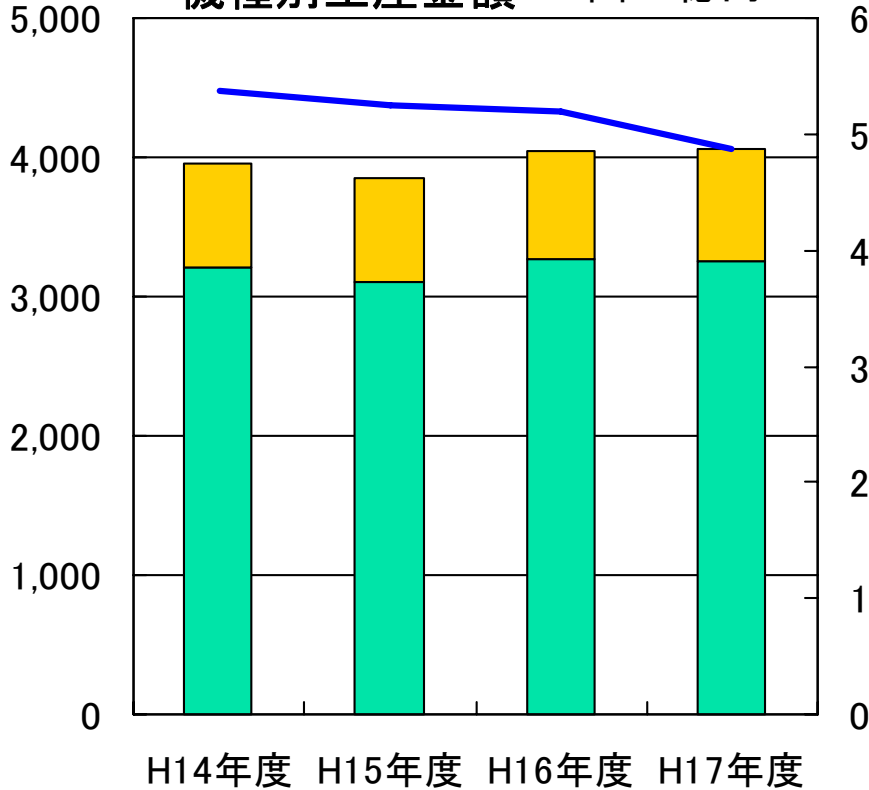


業界動向-2

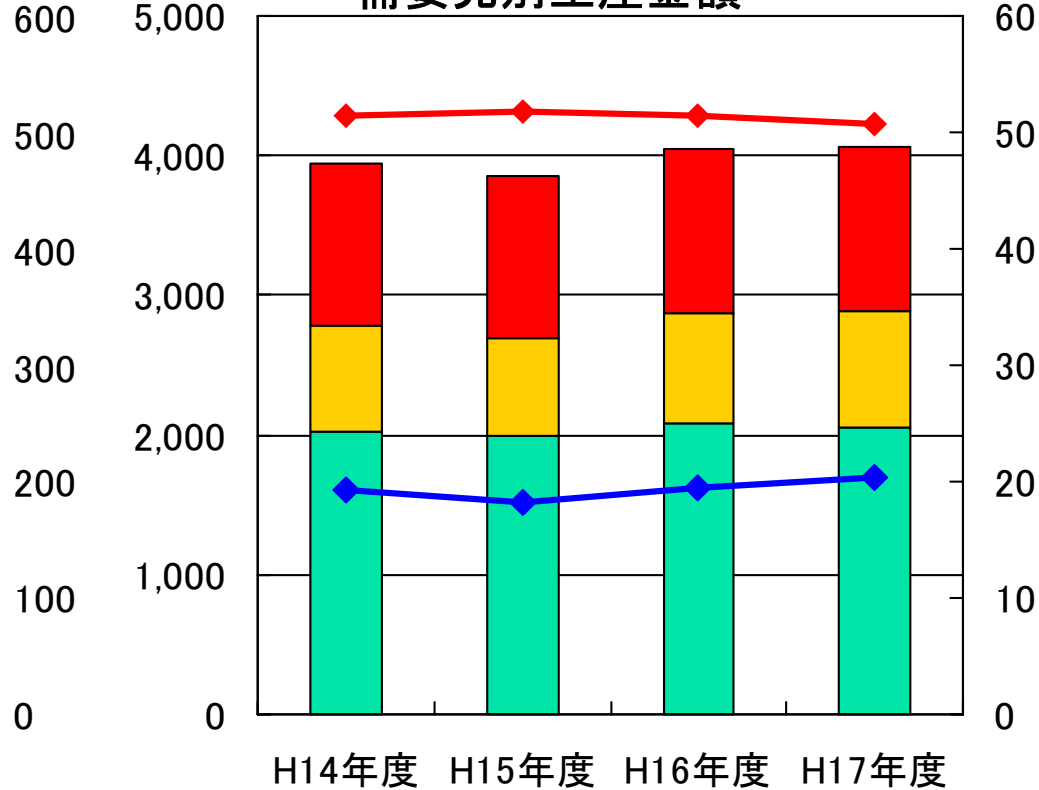
(社)日本包装機械工業会

「包装機械及び荷造機械生産高統計」

機種別生産金額 単位:億円



単位:億円 需要先別生産金額 単位:%



■ 個装・内装機械 ■ 外装・荷造機械
—◆— 製袋充てん機(右軸)

■ 食品部門 ■ 化学部門
■ その他 —◆— 食品部門構成比(右軸)
—◆— 化学部門構成比(右軸)

II. 2006年7月期 決算概況

2006年7月期決算のポイント

■ 増収・増益

- 売上高: 前期比+17.9%
前期末受注残大型包装システム(553百万円)の売上計上が寄与
保守売上高の増加もあり、全体としては前期比17.9%の増収
- 売上総利益率: 27.7%(前期比+0.9%)
主力の給袋自動包装機が、低粗利案件の減少と高粗利機種で
2%以上回復
粗利率の低い包装関連機器の売上構成比が、前期比9.9%増加したた
め、全体の平均粗利率は、0.9%上昇に留まる。
- 販管費: 前期比+23.8%
大型展示会出展費用の発生、会計基準の変更による役員賞与引当金
などによる人件費の大幅増加による
- 当期純利益: 前期比+1.3%
部品の在庫廃棄損失を特別損失に計上したことから、当期純利益は
前期比1.3%増加に留まる。

2006年7月期の業績(計画比)

役員賞与の会計基準適用前の経常利益 316(計画比+5.3%)

(単位:百万円)

	2006年7月期		増減	
	計画(3月修正)	実績	金額	率
売上高	4,300	4,394	+94	+2.2%
売上総利益	1,214	1,217	+3	+0.3%
(売上総利益率)	(28.2%)	(27.7%)	—	—
営業利益	294	278	△15	△5.3%
(営業利益率)	(6.8%)	(6.3%)	—	—
経常利益	300	285	△14	△4.7%
(経常利益率)	(7.0%)	(6.5%)	—	—
当期純利益	177	154	△22	△12.9%
(当期純利益率)	(4.1%)	(3.5%)	—	—

2006年7月期の業績(前期比)

役員賞与の会計基準適用前の経常利益 316(前期比+29.0%)

(単位:百万円)

	2005年 7月期	2006年 7月期	増減	
			金額	率
売上高	3,726	4,394	+668	+17.9%
売上総利益	999	1,217	+218	+21.8%
(売上総利益率)	(26.8%)	(27.7%)	—	—
営業利益	240	278	+37	+15.7%
(営業利益率)	(6.5%)	(6.3%)	—	—
経常利益	245	285	+40	+16.4%
(経常利益率)	(6.6%)	(6.5%)	—	—
当期純利益	152	154	+1	+1.3%
(当期純利益率)	(4.1%)	(3.5%)	—	—

品目別売上内訳

(単位:百万円)

	2005年 7月期 実績	2006年 7月期 修正計画	2006年 7月期 実績	前年同期比増減	
				金額	率
給袋自動包装機	1,854	2,005	2,018	+163	+8.8%
製袋自動包装機	662	580	603	△59	△9.0%
ガス充填自動包装機	166	155	89	△77	△46.3%
包装関連機器等	409	865	918	+509	+124.3%
保守消耗部品その他	632	695	765	+132	+21.0%
合計	3,726	4,300	4,394	+668	+17.9%

品目別売上高の増減

前期比：+668百万円、+17.9%

- 全体として553百万円の大型案件の計上の効果
- 給袋自動包装機：+163百万円
低価格機種(10百万円以下)の販売台数の減少傾向続く
大型案件と高価格機種(30百万円以上 13台→18台)は増加
- 製袋自動包装機：△59百万円
50百万円以上の高価格機種台数が減少(△2台)
- ガス充填自動包装機：△77百万円
販売台数の低迷と翌期への繰越発生
- 包装関連機器等：+509百万円
大型案件(392百万円)と高額システム案件(50百万円以上 +3件)
- 保守消耗部品その他：+132百万円
高額保守案件の受注件数が大幅に増加

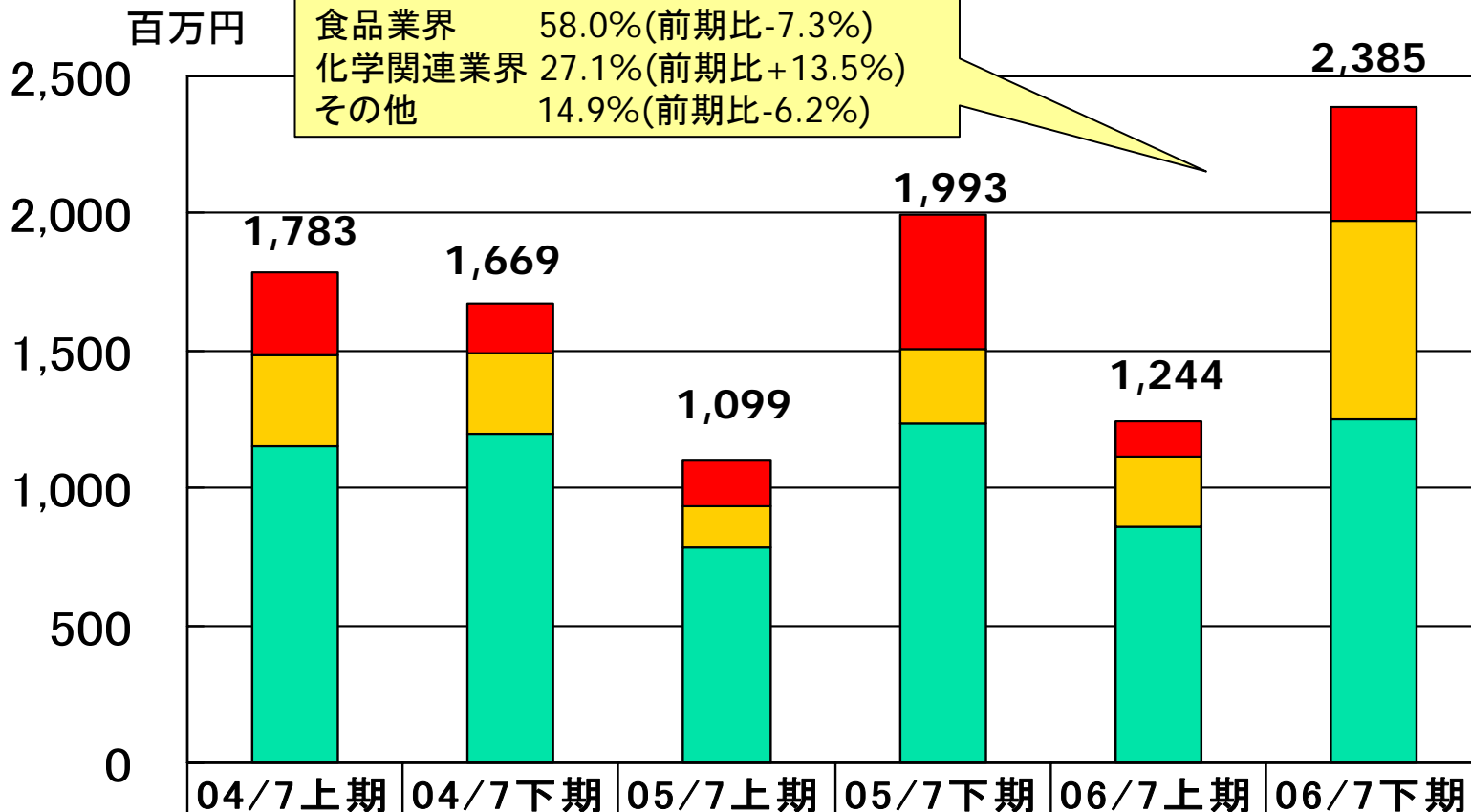
エンドユーザー業種別売上高

06/7期 機械売上高構成比

食品業界 58.0%(前期比-7.3%)

化学関連業界 27.1%(前期比+13.5%)

その他 14.9%(前期比-6.2%)

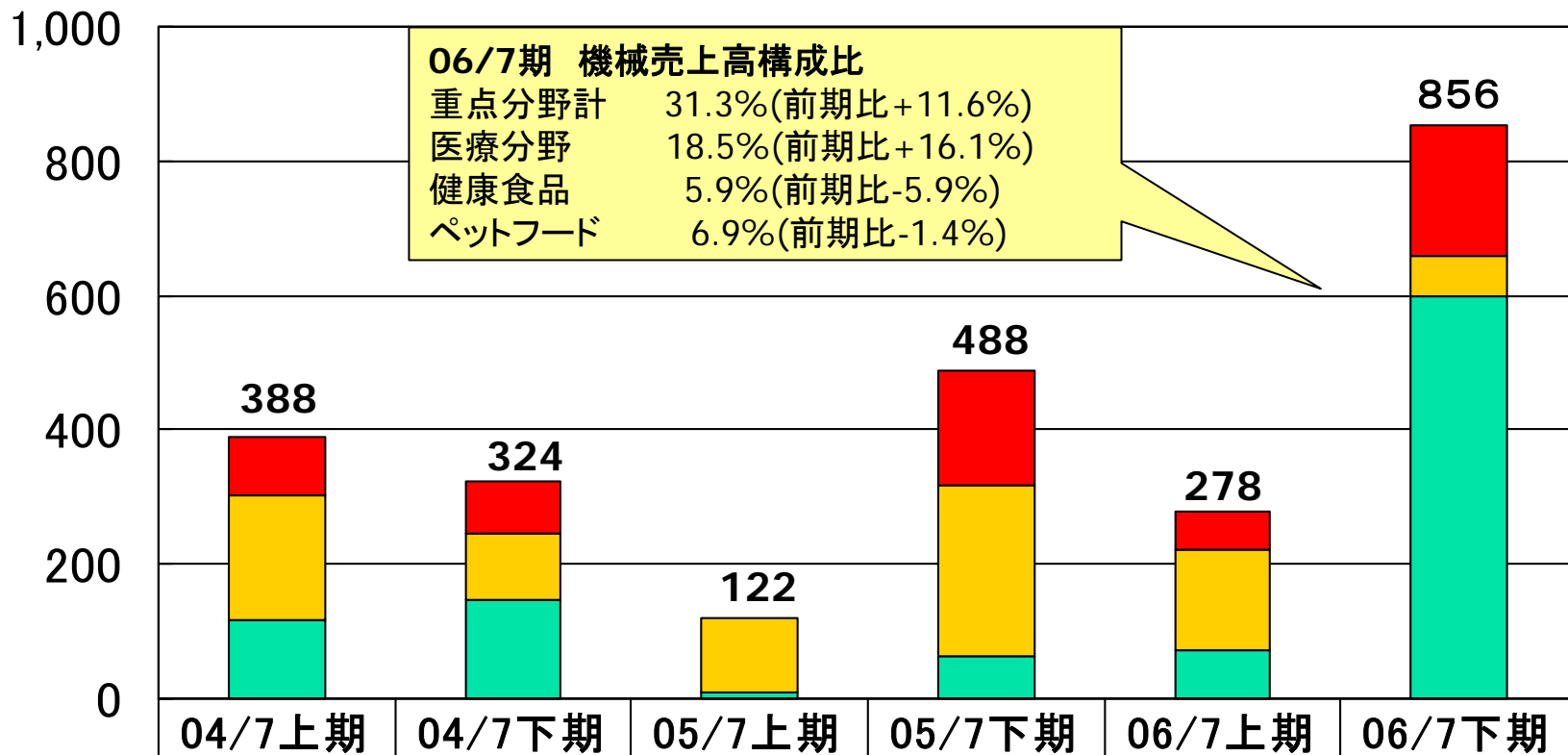


■ その他	301	178	167	484	126	413
■ 化学関連業界	332	291	150	270	262	722
■ 食品業界	1,150	1,199	781	1,238	855	1,249

(注)売上高は、機械の売上高のみ

重点分野別売上高

百万円 医療分野の大型包装システムの実績により、前期比大幅増



	04/7上期	04/7下期	05/7上期	05/7下期	06/7上期	06/7下期
■ ペットフード	85	77	0	170	55	195
■ 健康食品	187	100	112	253	151	61
■ 医療分野	116	146	9	64	71	598

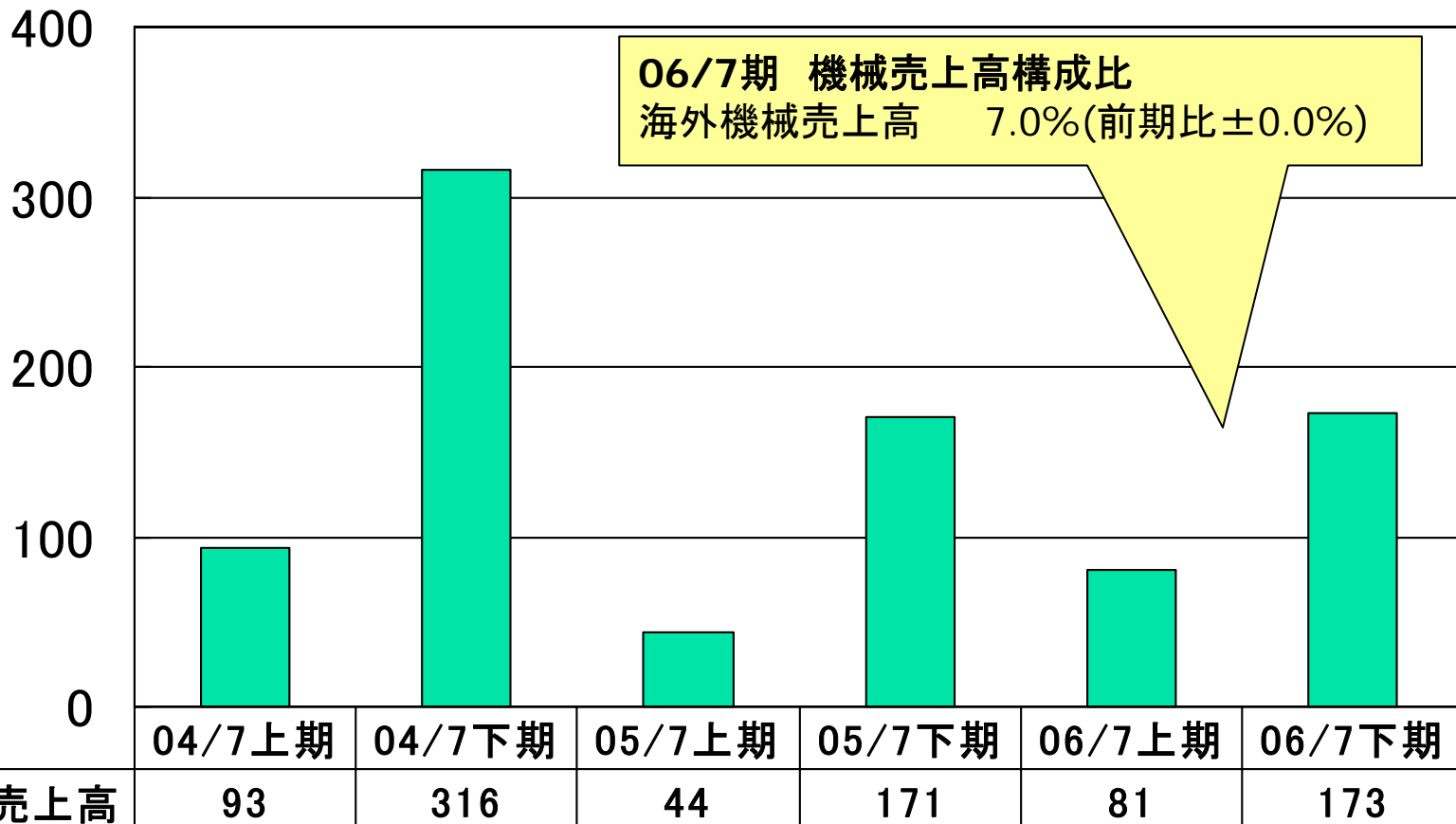
(注)売上高は、機械の売上高のみ

海外売上高(エンユーザー)

06/7期実績 254百万円(前期比18.5%増)

07/7期計画 400百万円以上を見込む

百万円

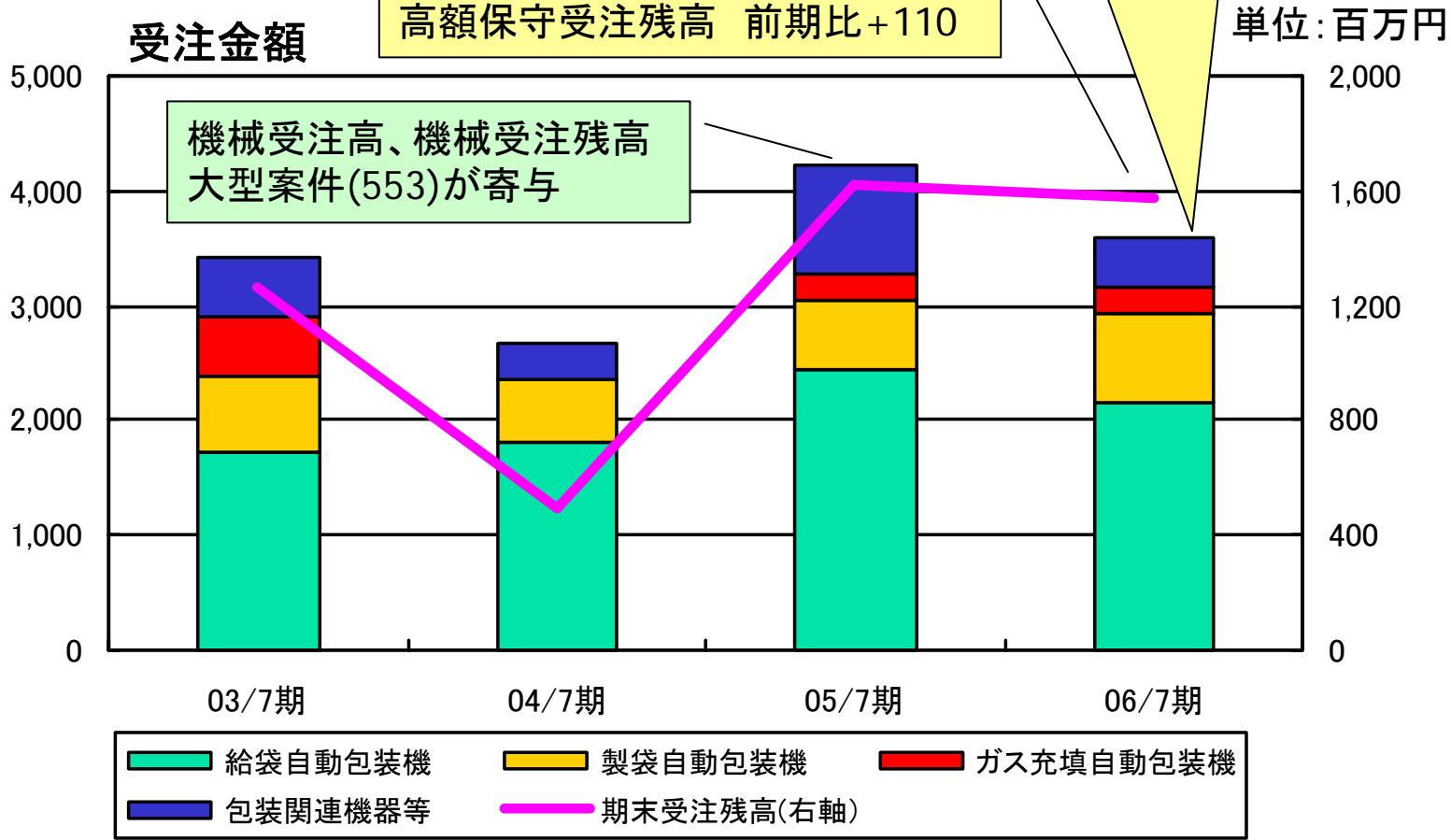


(注)売上高は、機械の売上高のみ

機械の受注動向

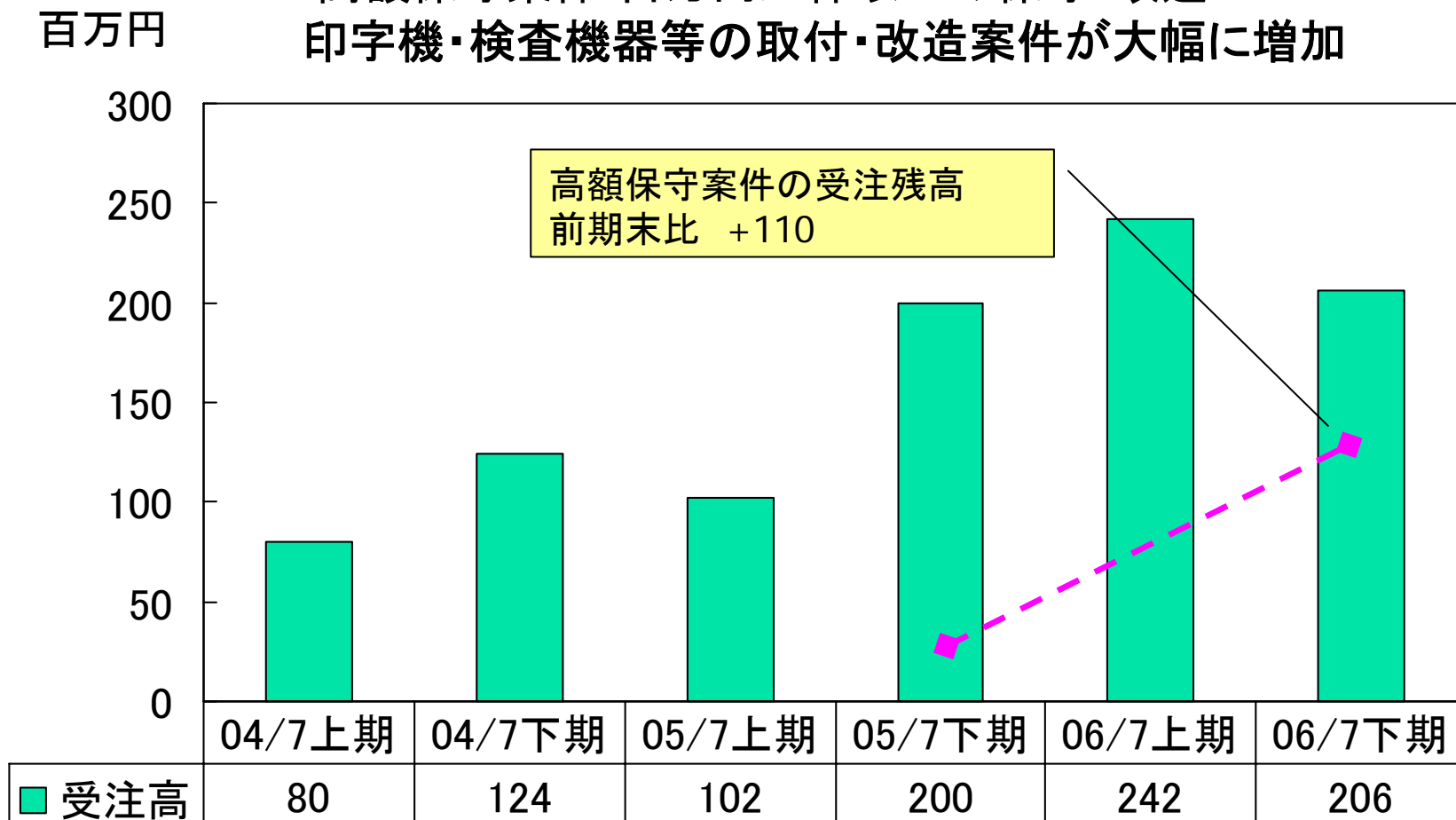
機械受注高; 第1四半期が低迷
第2四半期以降は、
四半期1,000前後を確保

機械受注残高 前期比-48
高額保守受注残高 前期比+110



高額保守案件の受注高推移

高額保守案件: 百万円／件以上の保守・改造
印字機・検査機器等の取付・改造案件が大幅に増加



注) 印字機・検査機等の仕入機器の費用も含む

仕入機器の販売のみの場合は、包装関連機器等に計上

Ⅲ. 2007年7月期 業績見通し

2007/7期業績見通しのポイント

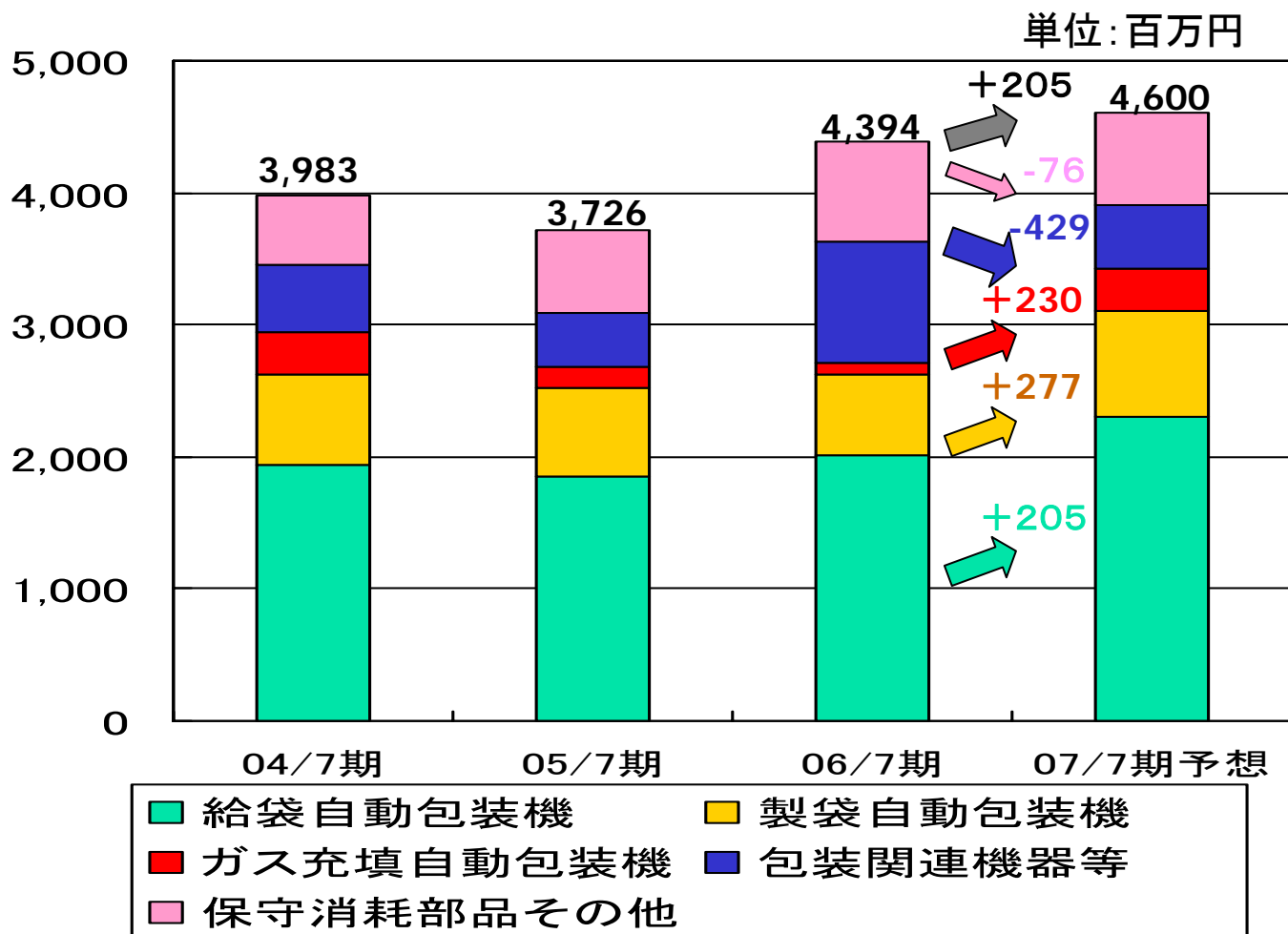
- 増収、増益
 - 高価格機種の販売台数が増加
 - 平均粗利率が高い品目の売上構成比が増加
 - 売上高は4.7%増の46億円を見込む
 - 総利益率は、1.6ポイント改善
 - 販管費は1%増でとどまることから、営業利益率は2.3ポイント改善
 - 当期純利益は、前期比52%増

2007年7月期業績予想

(単位:百万円)

	2006年 7月期	2007年 7月期予想	増減	
			金額	率
売上高	4,394	4,600	+205	+4.7%
売上総利益	1,217	1,346	+128	+10.5%
(売上総利益率)	(27.7%)	(29.3%)	—	—
営業利益	278	396	+117	+42.3%
(営業利益率)	(6.3%)	(8.6%)	—	—
経常利益	285	400	+114	+39.9%
(経常利益率)	(6.5%)	(8.7%)	—	—
当期純利益	154	235	+131	+52.4%
(当期利益率)	(3.5%)	(5.1%)	—	—

品目別売上高見通し



07/7期計画

■ 保守消耗部品その他
高額保守案件数の減少

■ 包装関連機器

前期は大型案件実績が
寄与

■ ガス充填自動包装機
需要回復

新機種開発と拡販

■ 製袋自動包装機

チャック付袋対応機の拡販

新機種開発と拡販

■ 給袋自動包装機

海外向け増加

チャック付袋対応機の拡販

IV. 中期経営計画と 今後の取組み

中期経営計画(2006年7月期～2008年7月期)

◆経営ビジョン

1. ドライ物向けのロータリー式自動包装機No. 1企業
2. 知的労働特化型企业
3. 包装システムの市場創造型プランナー

◆経営目標 2008年7月期

1. 売上高経常利益率 10%以上
2. ROA(総資産経常利益率) 10%以上
3. ROE(自己資本当期純利益率) 10%以上
4. 利益生産性(全従業員一人当たり経常利益) 4百万円以上

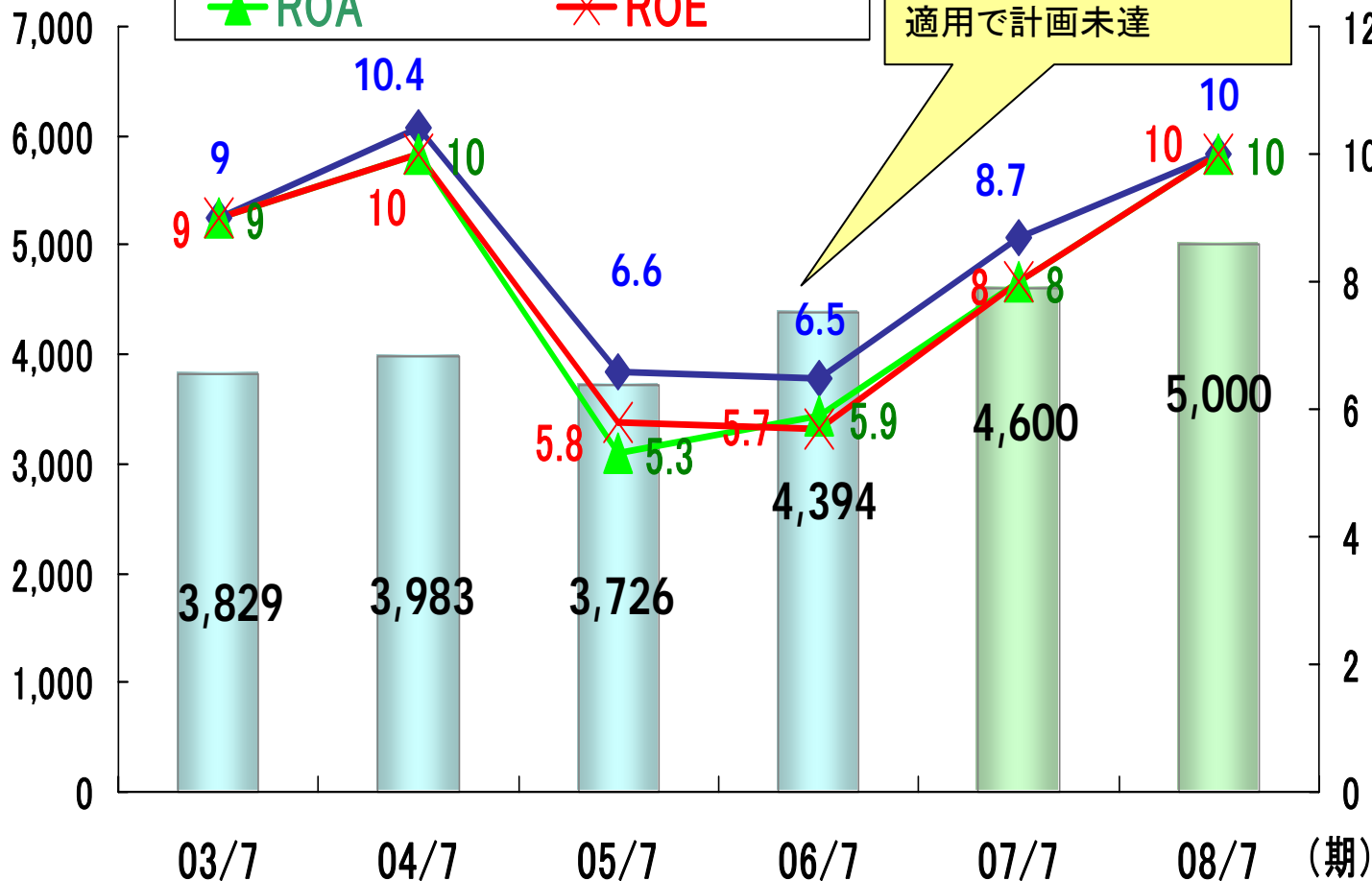
◆業績目標 2008年7月期

1. 売上高 5,000百万円以上
2. 営業利益 495百万円以上
3. 経常利益 500百万円以上
4. 当期純利益 295百万円以上

中期経営目標

(百万円)

■ 売上高
▲ ROA
◆ 経常利益率
✕ ROE



当初計画
経常利益率:7.0%
ROA:6.0%
ROE:6.5%
従来基準では計画達成
役員賞与の会計基準の
適用で計画未達

<08/7期計画>
07/7期比
売上総利益+129
販管費+30にて、
各指標10%以上
の達成を目指す

<07/7期計画>
役員賞与引当金
を吸収した上で、
06/7期比
売上総利益+128
販管費+10にて、
各指標8%以上の
達成を目指す

← 中期経営計画 →

中期経営目標達成に向けての取組み

1. 中長期的な成長基盤を強化するための戦略的投資等の増加
 - 販売促進投資・研究開発投資・人材投資等
2. 営業体制の強化と海外市場の開拓・販路の拡大
3. チャック付袋対応機種のリニューアル強化と拡販
4. ガス充填システム搭載機種の拡販
5. 重点分野(医療分野・健康食品・ペットフード等)への深耕

各取組みの進捗状況と今後の計画

① 成長基盤強化のための戦略的投資等の増加

■ 販売促進投資

■ 展示会を中心とした販売促進活動の強化

単位:百万円、人

広告宣伝費(営業本部)と
販売促進費の合計

	05/7期	06/7期	07/7期計画
販売促進投資額	43	74	59
研究開発費	99	89	101
従業員(人)	97	101	105
平均臨時雇用者(人)	20	20	24
設備投資額	156	147	35

■ 研究開発投資

■ 開発体制の強化

■ 新機種開発の 強化

■ 人材投資

■ 人材確保(新卒・中途採用、臨時雇用者)と人材育成の強化

■ 設備投資:新工場建設(07/8月完成予定:約4億円)

各取組みの進捗状況と今後の計画

②営業体制の強化と海外市場の開拓・販路の拡大

■東京営業部の強化

■06/7期:7名体制⇒07/7期:8名体制(期中に増員も計画)

■海外市場の開拓

単位:百万円

■グローバル企業の

製造拠点への

機械供給の拡大

■日系企業の海外

工場への拡販

■国内販路の拡大

■新規顧客・販路の開拓

	05/7期	06/7期	07/7期計画
海外売上高	215	283	400以上
売上高構成比	5.8%	6.4%	8.5%以上
輸出国	フランス、ロシア、 南アフリカ、タイ、 中国 等	フランス、ロシア、 ブラジル、タイ、 アルゼンチン、 中国 等	フランス、アメリカ、 カナダ、イギリス、 ポーランド、中国、 ベトナム 等

* 海外部品売上高含む

各取組みの進捗状況と今後の計画

③チャック付袋対応機種種のラインナップ強化と拡販

■チャック付スタンドパウチ

対応機種種(STタイプ)

■給袋自動包装機

2000型、2250型、355型、700FZ型

256型・356型(07/7期追加)

■製袋自動包装機

2700C型、355B型

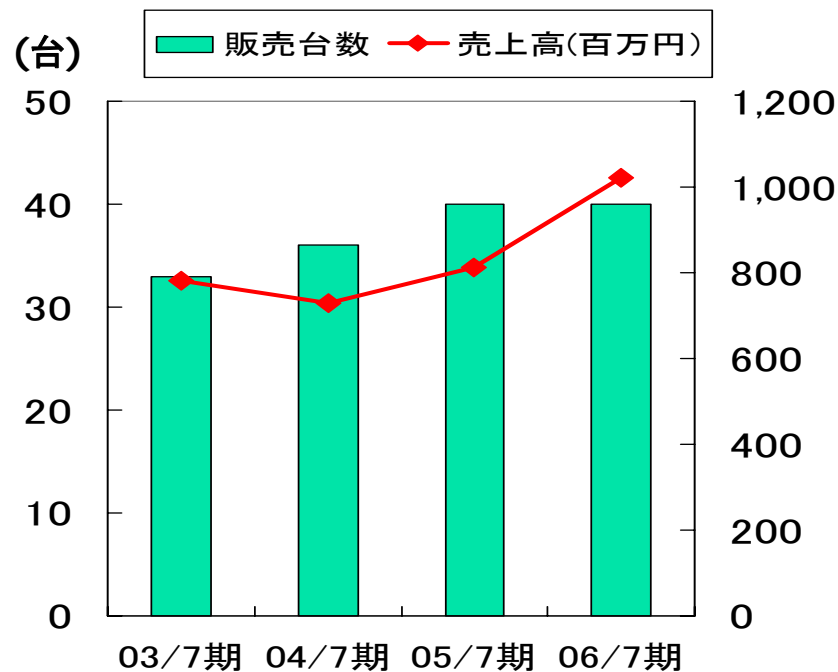
6600C型(07/7期追加)

■チャック付製袋自動包装機

2700C型、6700C型



STタイプ販売台数/売上高



各取組みの進捗状況と今後の計画

④ ガス充填システム搭載機種種の拡販

■ ガス充填自動包装機(ダブルロータリー)

過去2期間売上高低迷⇒新機種投入で売上高回復へ

■ 中袋用新機種(GS2H型)

の拡販(06/7期開発)

■ 大袋用機の高速機開発

と販売開始(07/7期予定)



GS2H型

高速機化(従来機40袋/分⇒55袋/分)

■ シングルロータリーガス充填システム

■ 給袋自動包装機・

製袋自動包装機の

ガス充填システム

搭載機種種の拡販

	05/7期	06/7期	07/7期計画
販売台数	6台	9台	10台以上
売上高(百万円)	201	247	300以上
売上高構成比	5.4%	5.6%	6.5%以上

* 本売上と、海外売上・STタイプ売上は、相互に重複部分があり

V. 參考資料

会社概要 (2006年7月31日現在)

- 設立 1966年(創業 1961年)
- 資本金 251百万円
- 発行済株式数 4,497千株
- 売買単位 1,000株
- 決算期 7月末
- 事業内容 各種自動包装機の製造・販売
(食品・化学品・健康食品・医療用品等の包装用機械・システム)
- 従業員数 101名(その他臨時雇用者22名)
- 事業所 本社・工場、東京営業部

特徴・用途

品目	主な用途
給袋自動包装機	菓子類、小麦粉、食品類、調味料、ペットフード、健康食品、医療用品、肥料、粉末薬品、電子部品等の袋詰用包装機。 多品種少量生産向け。
製袋自動包装機	充填物は給袋自動包装機と同様。小袋の高速包装から大袋包装まで。フィルムから袋を作りながら包装する機械。
ガス充填自動包装機	花かつお、バターピーナッツ等の袋詰用包装機。
包装関連機器等	付帯機器(充填機、計量機、計数機、印字機等)、段ボールケーサー、各種包装システム等
保守消耗部品その他	当社販売機械の保守、修理・交換用部品、印字機等の取付・改造等

企業ビジョン

- 「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現



配当政策

- 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、安定配当を堅持しつつ、配当性向30%を目安に、業績動向を見ながら段階的に配当金の増加を図る。

	2005/7期	2006/7期	2007/7期予想
中間配当	6円	6円	7円
期末配当	6円	6円	7円
年間配当	12円	12円	14円
当期純利益／株	27.19円	34.29円	52.28円
配当性向	44.1%	35.0%	26.8%

包装システムの市場創造型トータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社



当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【IR窓口】 経営企画室 長谷川
〒481-8601
愛知県北名古屋市字福寺神明65
電話:0568-23-3111 FAX:0568-22-3222
E-mail: x-hasegawa@general-packer.co.jp